

つくば SDGs パートナース認定

2020年7月8日付で、つくば SDGs パートナース認定証を受け取った。茨城県つくば市は「SDGs 未来都市」に選定されており、SDGs に取り組んでいる市民、企業の交流の場として、つくば SDGs パートナースが組織されている。パートナーズの団体会員の登録要件は「つくば市内でSDGsに関連する取り組みをしている、または、取り組む意欲があること」などである。SDGs（持続可能な開発目標）は2015年に国連で採択された2030年までに、世界で達成すべき17の目標であるが、国際耕種は、途上国における技術協力や、つくば市にある JICA 筑波での研修業務を通じて、既にSDGsの取り組みに関わっていること、また今後新たにつくば市の農業や地域振興にかかわる活動ができないか、模索していたことから、この度パートナーに登録することとした。



SDGs 未来都市は環境、社会、経済の三つの価値創造と実現を目指すことに加え、地方創生につながる地域のステークホルダーと連携し、SDGs 達成に向けて戦略的に取り組む自治体（都市）が選定されるもので、つくば市は2018年6月に選定された。2018年9月には「つくば市SDGs 未来都市計画」が策定され、その中で「社会、経済、環境の3つの側面からのアプローチを重視しながら、つくば市としての強みや優先課題を考慮し」、1.子どもの未来（Child）、2.包括的な社会

（Inclusive）、3.価値の創造と継承(Value)、4.誰もが使いやすいインフラ（ユニバーサルインフラ）（Infrastructure）、5.循環と環境保全（Circulate）を今後の取り組みの5つの柱としている。これらは、頭文字をとって、CIVIC 事業と名付けられている。CIVIC 事業は必ずしも、農業の文脈で提言されているものではないが、つくば市が農村と都市の共存する田園都市であることを考えると国際耕種が農業と環境の視点から貢献できることはありそうだと感じている。

「こどもの未来」について、国際耕種は毎年夏休みにつくば市が小中学生を対象に実施している「ちびっこ博士」のイベントに JICA 筑波の研修コースとして、協力している経験があることから、こどもを対象とした農作業体験教室や農業を題材にした国際理解講座などが実施できそうである。「包括的な社会」について、つくば市は外国人研究者なども多く、住民に対する外国人の人口比率が全国平均の2倍という国際化の進んだ都市であるので、国際耕種の海外での農業・農村開発の経験を活かし、市内在住の外国人と農的体験を結び付けた活動などができそうだと考えている。さらに、「価値の創造と継承」「ユニバーサルインフラ」「循環と環境保全」に関しても、乾燥地農業をはじめとした技術開発・普及の経験、静岡県袋井市でのユニバーサル農業の取り組み、環境関連で業務経験などを活かせる場面がありそうだと

また、つくば市では「SDGs パートナース講座」など会員が集まる機会も設けていることから、つくば市の他のパートナーズ企業や NGO などと交流し、つくば市の農業と環境にかかわるきっかけを作っていきたい。